

市内児童・生徒の学力検査の結果について

『小学校』

令和4年度 教研式標準学力検査（CRT）の結果について（令和4年4月実施）

●観点別集計

国語科	2年生		3年生		4年生		5年生	
	得点率	全国比	得点率	全国比	得点率	全国比	得点率	全国比
1 知識・技能	82.4	104	83.2	105	67.5	105	71.3	105
2 思考・判断・表現	64.8	104	68.6	103	66.6	100	66.6	104
3 主体的に学習に取り組む態度	81.7	101	81.2	101	79.8	105	78.6	100
4 2観点平均（※）	73.6	104	75.9	104	67.1	103	69	105

算数科	2年生		3年生		4年生		5年生	
	得点率	全国比	得点率	全国比	得点率	全国比	得点率	全国比
1 知識・技能	80.6	102	81.1	106	77.9	103	72.7	105
2 思考・判断・表現	68.1	106	53.3	102	61.8	101	51.9	106
3 主体的に学習に取り組む態度	82.3	101	81.3	101	81.6	104	79.8	99
4 2観点平均（※1）	74.4	104	67.2	104	69.9	102	62.3	105

※1 「2観点平均」…「知識・技能」と「思考・判断・表現」を合わせて評価したもの

●領域別集計

国語科	2年生		3年生		4年生		5年生	
	得点率	全国比	得点率	全国比	得点率	全国比	得点率	全国比
I 話すこと・聞くこと	59.9	104	79.9	102	75.1	100	73.5	101
II 書くこと	85.6	103	72.8	105	58.4	108	61.4	109
III 読むこと	71.3	106	73.0	106	68.1	101	70.4	105

算数科	2年生		3年生		4年生		5年生	
	得点率	全国比	得点率	全国比	得点率	全国比	得点率	全国比
I 数と計算	77.5	103	66.9	105	73.9	103	70.2	103
II 図形	73.2	105	60.6	102	72.3	108	70.8	105
III（※2）	75.2	104	78.1	105	71.4	100	41.5	117
IV（※3）							63.4	102

※2 III…2年生～4年生「測定・データの活用」 5年生「変化と関係」

※3 IV…5年生「データ活用」

○全ての学年において国語、算数とも全国平均と同等か全国を上回る力を付けている。

○観点別で見ると国語科の「知識・技能」、領域別で見ると国語科の「書くこと」及び「読むこと」、算数科の「図形」に

において全国を大きく上回っており、指導の成果が現れている。

△「主体的に学習に取り組む態度」の結果が、他の観点に比べて低い傾向がある。教師の説明を極力少なくし、自分の考え

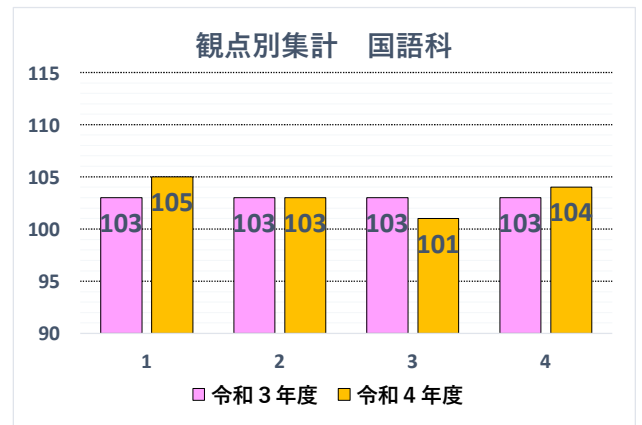
を友達と交流する場面や 自分の学びを振り返る場面を重視する。アとで「何ができるようになったか」を全員が確認で

【同一集団比較】

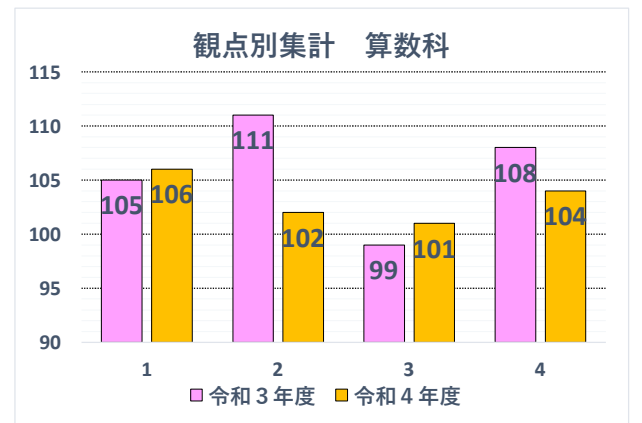
『令和4年度小学校第3学年』

●観点別集計

国語科	令和3年度（2年時）		3年生	
	得点率	全国比	得点率	全国比
1 知識・技能	86.3	103	83.2	105
2 思考・判断・表現	63.8	103	68.6	103
3 主体的に学習に取り組む態度	86.1	103	81.2	101
4 2観点平均（※1）	75.1	103	75.9	104



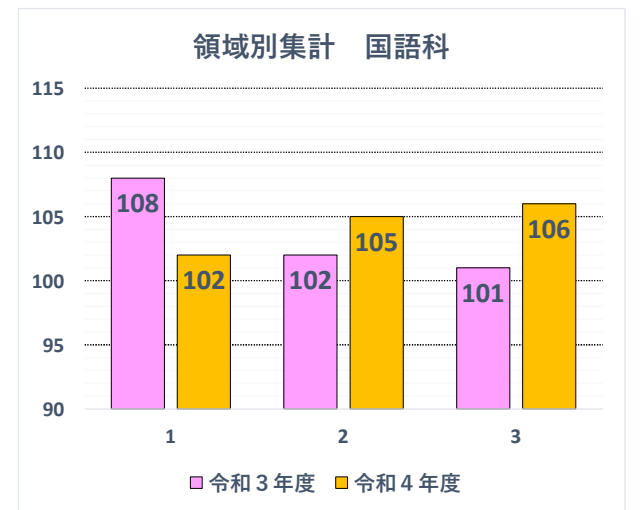
算数科	令和3年度（2年時）		3年生	
	得点率	全国比	得点率	全国比
1 知識・技能	83.0	105	81.1	106
2 思考・判断・表現	71.8	111	53.3	102
3 主体的に学習に取り組む態度	83.6	99	81.3	101
4 2観点平均（※1）	77.4	108	67.2	104



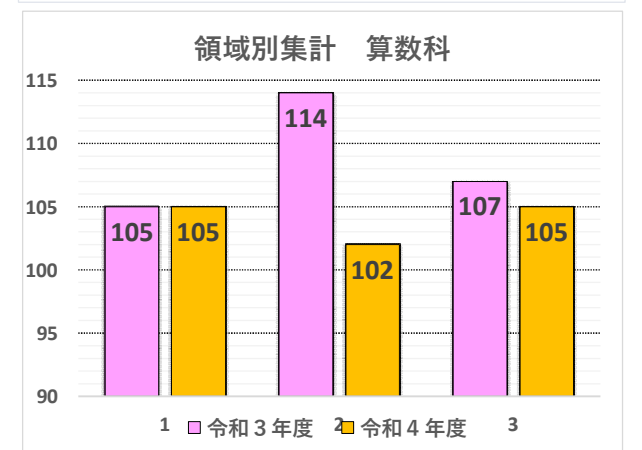
※1 「2観点平均」…「知識・技能」と「思考・判断・表現」を合わせて評価したもの

●領域別集計

国語科	令和3年度（2年時）		3年生	
	得点率	全国比	得点率	全国比
I 話すこと・聞くこと	63.9	108	79.9	102
II 書くこと	85.6	102	72.8	105
III 読むこと	71.9	101	73.0	106



算数科	令和3年度（2年時）		3年生	
	得点率	全国比	得点率	全国比
I 数と計算	78.8	105	66.9	105
II 図形	80.4	114	60.6	102
III 測定・データ活用	77.9	107	78.1	105

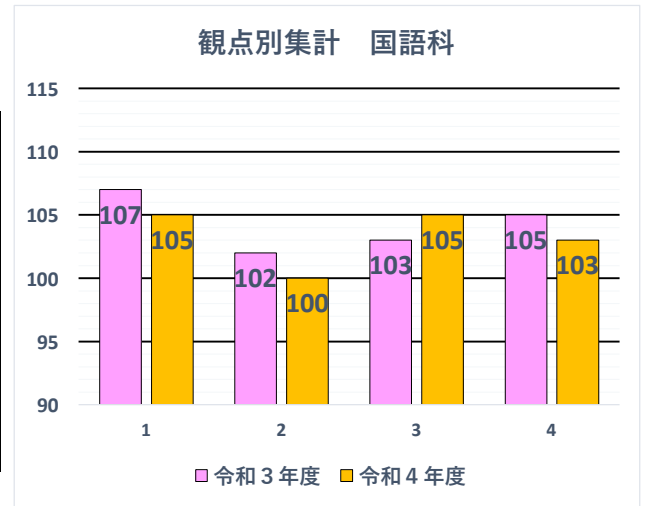


【同一集団比較】

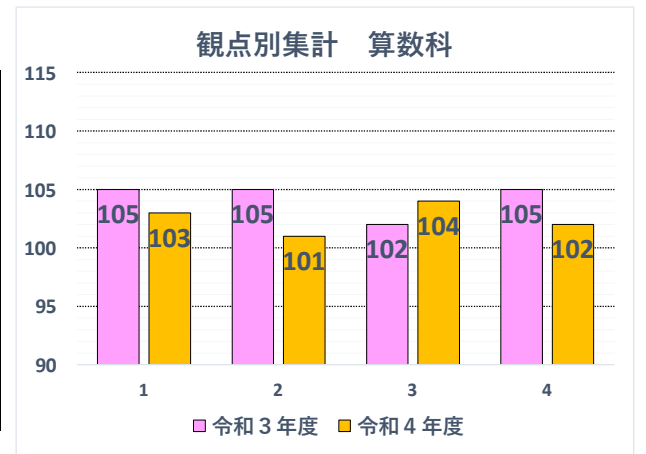
『令和4年度第小学校第4学年』

●観点別集計

国語科	令和3年度（3年時）		4年生	
	得点率	全国比	得点率	全国比
1 知識・技能	87.4	107	67.5	105
2 思考・判断・表現	70.1	102	66.6	100
3 主体的に学習に取り組む態度	83.9	103	79.8	105
4 2観点平均（※1）	78.8	105	67.1	103



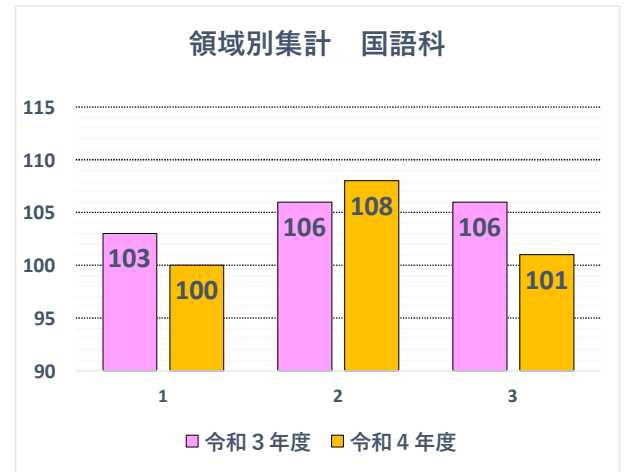
算数科	令和3年度（3年時）		4年生	
	得点率	全国比	得点率	全国比
1 知識・技能	85.3	105	77.9	103
2 思考・判断・表現	54.2	105	61.8	101
3 主体的に学習に取り組む態度	84	102	81.6	104
4 2観点平均（※1）	69.8	105	69.9	102



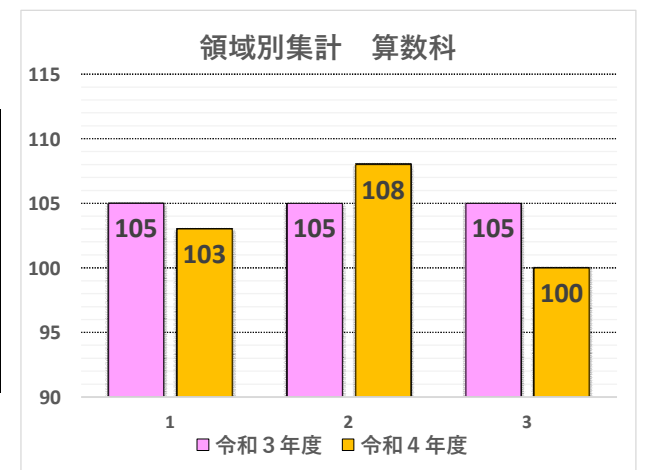
※1 「2観点平均」…「知識・技能」と「思考・判断・表現」を合わせて評価したもの

●領域別集計

国語科	令和3年度（3年時）		4年生	
	得点率	全国比	得点率	全国比
I 話すこと・聞くこと	81.8	103	75.1	100
II 書くこと	76.6	106	58.4	108
III 読むこと	76.5	106	68.1	101



算数科	令和3年度（3年時）		4年生	
	得点率	全国比	得点率	全国比
I 数と計算	69.5	105	73.9	103
II 図形	63.6	105	72.3	108
III 測定・データ活用	81	105	71.4	100

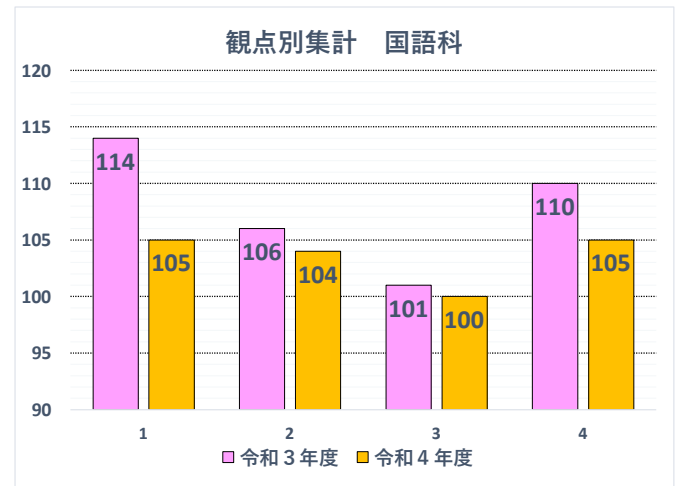


【同一集団比較】

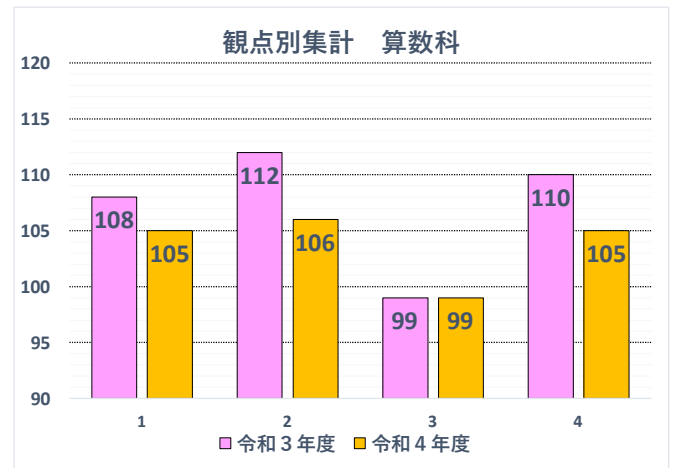
『令和4年度小学校第5学年』

●観点別集計

国語科	令和3年度（4年時）		5年生	
	得点率	全国比	得点率	全国比
1 知識・技能	75.4	114	71.3	105
2 思考・判断・表現	69.7	106	66.6	104
3 主体的に学習に取り組む態度	80.7	101	78.6	100
4 2観点平均（※1）	72.6	110	69	105



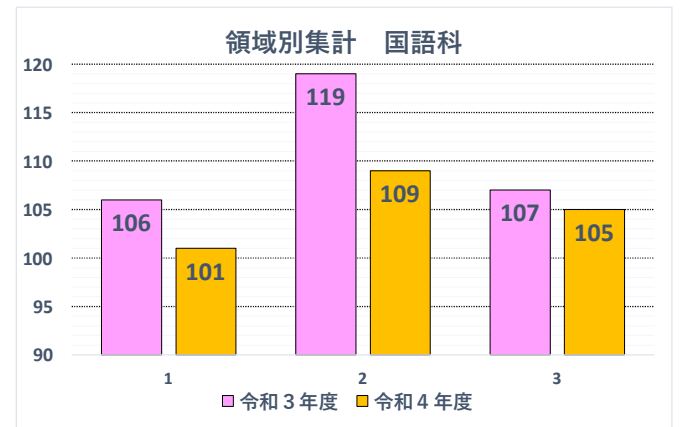
算数科	令和3年度（4年時）		5年生	
	得点率	全国比	得点率	全国比
1 知識・技能	85.1	108	72.7	105
2 思考・判断・表現	68.2	112	51.9	106
3 主体的に学習に取り組む態度	81.6	<u>99</u>	79.8	<u>99</u>
4 2観点平均（※1）	76.7	110	62.3	105



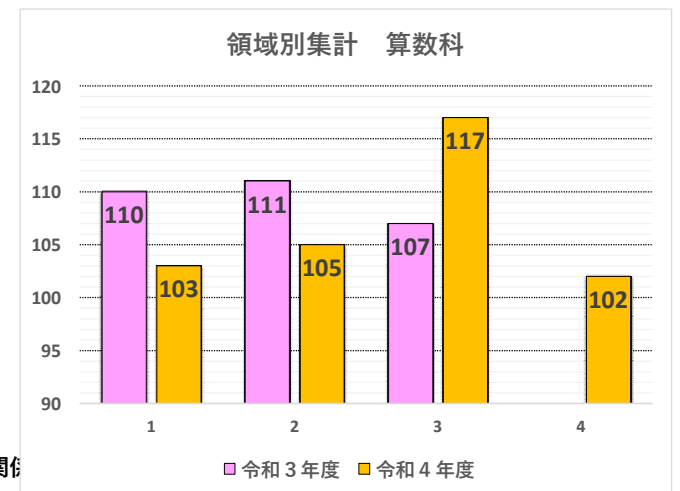
※1 「2観点平均」…「知識・技能」と「思考・判断・表現」を合わせて評価したもの

●領域別集計

国語科	令和3年度（4年時）		5年生	
	得点率	全国比	得点率	全国比
I 話すこと・聞くこと	77.4	106	73.5	101
II 書くこと	68.6	119	61.4	109
III 読むこと	71.6	107	70.4	105



算数科	令和3年度（4年時）		5年生	
	得点率	全国比	得点率	全国比
I 数と計算	81.7	110	70.2	103
II 図形	79.7	111	70.8	105
III（※2）	76.8	107	41.5	117
IV（3）※			63.4	102



※2 III…2年生～4年生「測定・データの活用」 5年生「変化と関係」

※3 IV…5年生「データ活用」

● 評定出現率（単位：％ 下段の数値は全国との比較）

【小学校2年生】

評定出現率・全国比		国語	算数
	3	52 (+9)	58 (+12)
	2	41 (-1)	38 (-2)
	1	7 (-8)	4 (-10)
実施人数		92人	92人

【小学校3年生】

評定出現率・全国比		国語	算数
	3	55 (+9)	55 (+13)
	2	40 (±0)	30 (-10)
	1	5 (-9)	15 (-3)
実施人数		96人	96人

【小学校4年生】

評定出現率・全国比		国語	算数
	3	46 (+2)	45 (+2)
	2	44 (+3)	49 (+7)
	1	10 (-5)	6 (-9)
実施人数		108人	108人

【小学校5年生】

評定出現率・全国比		国語	算数
	3	45 (+3)	51 (+8)
	2	45 (+5)	42 (+4)
	1	10 (-8)	7 (-12)
実施人数		94人	94人

【考察及び改善に向けた手立て】

- ・国語科、算数科ともに、どの学年においても全国平均と同等か、上回る結果となっている。
- ・評定出現率については、4年生の段階から評定3の児童の割合が減少する傾向にある。
→ 3年生後半の学習について、特に指導と評価を丁寧に行う必要がある。
- ・また、全国比と比べると「1」の割合は低いものの、3年生以上で本市として「1」の評定が1割程度いるということは軽視できない。
→ 一人ひとりの状況を分析し、個に応じた個別指導を継続的に行う必要がある。

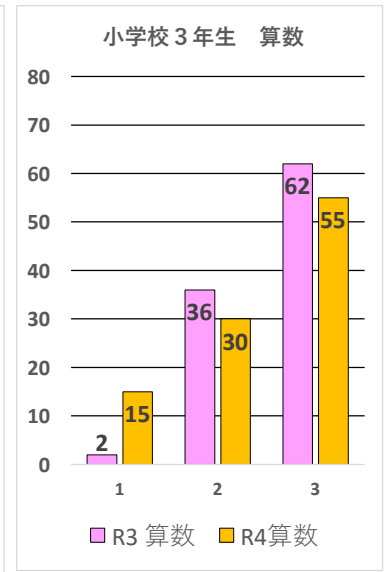
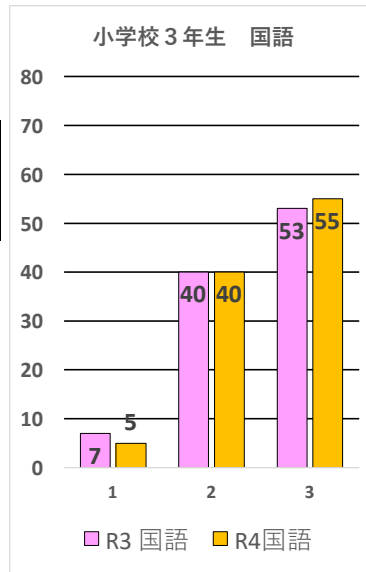
※各校の「確かな学力育成プラン」をもとに、全職員が共通認識のもと、指導と評価の一体化を意識して授業に臨むことを実践するよう、研修会等で具体的手立てを確認しながら指導を行う。特に「何ができるようになったか」を振り返りの場面で教師も児童・生徒も自己認識できるよう、評価場面を大切にさせる。

※「記述問題」や「解答に至る経緯を問う問題」での無答率を解消するために、授業の中で考えを交流する場面を多くしたり、解答までの道筋を説明させたりするような指導を心がける必要がある。

● 評定出現率過年度比較（単位：％ 下段の数値は全国との比較）

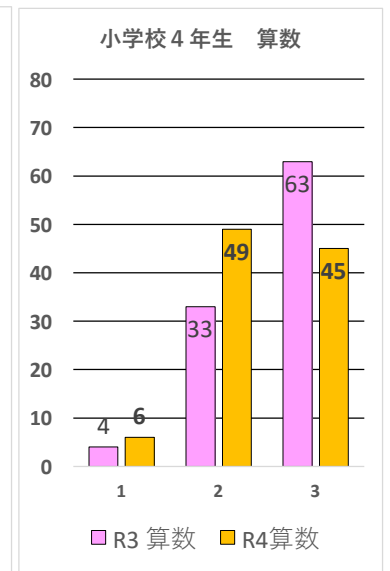
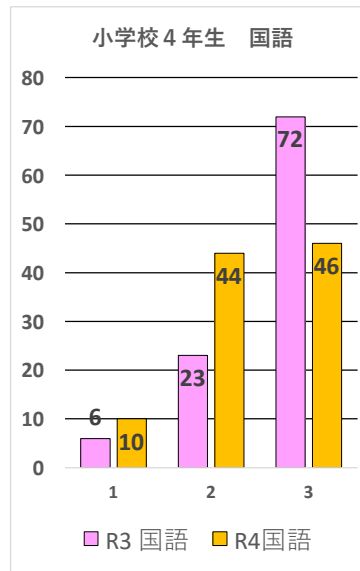
【令和4年度 小学校3年生】

		国語		算数	
		R3	R4	R3	R4
評定出現率・全国比	3	53 (+7)	55 (+9)	62 (+14)	55 (+13)
	2	40 (-1)	40 (±0)	36 (-4)	30 (-10)
	1	7 (-6)	5 (-9)	2 (-10)	15 (-3)
実施人数		99人	96人	99人	96人



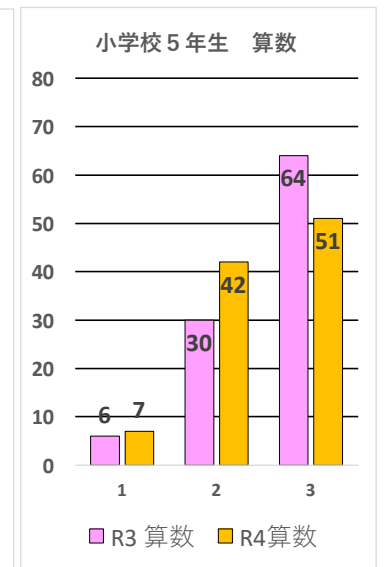
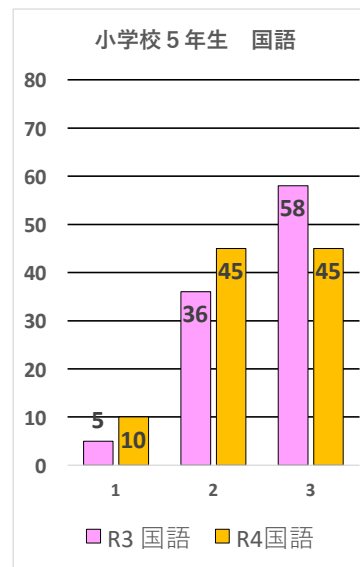
【令和4年度 小学校4年生】

		国語		算数	
		R3	R4	R3	R4
評定出現率・全国比	3	72 (+24)	46 (+2)	63 (+19)	45 (+2)
	2	23 (-17)	44 (+3)	33 (-9)	49 (+7)
	1	6 (-6)	10 (-5)	4 (-10)	6 (-9)
実施人数		106人	108人	106人	108人



【令和4年度 小学校5年生】

		国語		算数	
		R3	R4	R3	R4
評定出現率・全国比	3	58 (+15)	45 (+3)	64 (+19)	51 (+8)
	2	36 (-5)	45 (+5)	30 (-11)	42 (+4)
	1	5 (-10)	10 (-8)	6 (-8)	7 (-12)
実施人数		96人	94人	96人	94人



中学校2年生 国語

令和4年度 標準学力検査の結果について（令和4年4月実施）

★全国比によるカテゴリー間の比較（全国を50とした標準スコア）

	陸前高田市
教科全体	49.91
基礎	49.51
活用	50.51
言葉の特徴や使い方に関する事項	50.38
情報の扱い方に関する事項	51.22
我が国の言語文化に関する事項	49.39
話すこと・聞くこと	50.57
書くこと	48.00
読むこと	50.93
知識・技能	50.58
思考・判断・表現	49.73
主体的に学習に取り組む態度	48.88

中学校2年生 数学

★全国比によるカテゴリー間の比較（全国を50とした標準スコア）

	陸前高田市
教科全体	50.56
基礎	50.57
活用	50.43
数と式	50.87
図形	50.72
関数	49.58
データの活用	50.29
知識・技能	50.60
思考・判断・表現	50.29

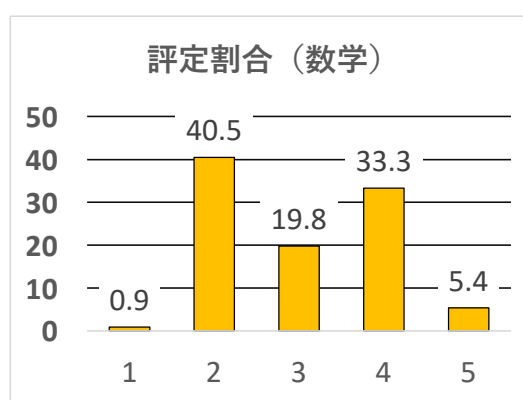
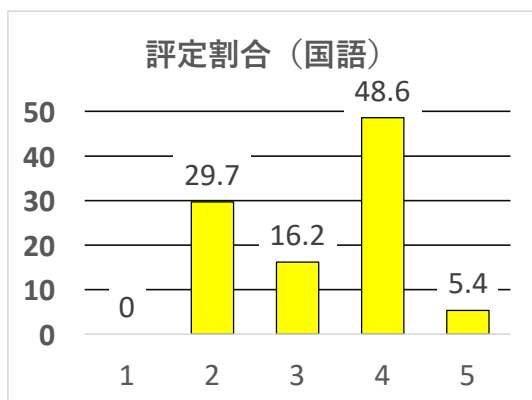
●教科の評定別人数比（5段階評価）

【中学校2年生】

単位（％）

教科 \ 評定	1	2	3	4	5
国語	0	29.7	16.2	48.6	5.4
数学	0.9	40.5	19.8	33.3	5.4

実施人数 111人



【考察及び改善に向けた手立て】

- ・国語、数学ともに、全国比の数値とほぼ同じであり平均的な力をつけていると言える。
- ・国語において「書くこと」、「言語文化に関する事項」、「思考・判断・表現」の観点に落ち込みが見られる。特に「書くこと」に関しては-2ポイントとなっており、自分の考えを効

果的に相手に伝えることに課題が見られる。また、数学では「関数」の分野に落ち込みが見られ、対応する複数の項目の関係の理解に課題が生じている。

- ・評定別の割合を見ると、国語、数学とも割合の山が「3」の段階でくぼむ二つの山となっており、一斉指導が難しい傾向が見られる。特に数学は「2」の段階が4割と大きな課題である。

※落ち込みの大きい生徒の基礎基本の定着を図るため、**ピンポイントでの個別の支援を行うなど、定着のための取組が急務**である。（適切な個別課題を与える、理解できたかどうか確実に見取るなど）

※小学校と同様に、各校の「確かな学力育成プラン」をもとに、**全職員が共通認識のもと指導と評価の一体化を意識して授業に臨むことを徹底**する。特に「何ができるようになったか」を振り返りの場面で教師も児童・生徒も自己認識できるように評価場面を大切にさせる。

※「記述問題」や、「解答に至る経緯を問う問題」での無答率を解消するために、**授業の中で考えを交流する場面を意図的に設定したり、解答までの道筋を説明させたりするな指導を心がける必要**もある。また、教師が一方的な説明するような授業スタイルではなく、生徒が主体的に考え、思考・判断・表現する場面を意図的に仕組んだ授業に転換することが求められる。